

# 週 報

1995年10月22日 聖霊降臨節第21主日

巻16 30号

1995年度教会主題

「恵みに生きる」

聖句 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

コリントの信徒への手紙 二 12章9節a

- 目 標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団

## 横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話	045-833-5323
ファックス	045-833-6616
振 替	00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

ている。生き残った戦後は固く口を閉ざし貧しさと孤独に耐えてきた。国策によって強制的に「性」を奴隷化した罪は限りなく重い。

歴代の首相は「謝罪」を表明しているようだが、彼女たちには届いていない。謝罪の実態がないからである。そこで、「女性のためのアジア平和国民基金」構想を打ち出し、国民からの募金によって彼女たちに賠償をしようとしている。この「国民基金」に関し賛否がはっきり分れている。推進派は戦後の賠償問題は、北朝鮮を除き国際法上決着がついており、個人賠償は難しい。しかし、国民の一人として何とか謝罪を表わしたい、又彼女たちに残された時間が少ないので急を要すると主張している。反対派は、国の謝罪と賠償が正義であり、これをうやむやにする「国民基金」は二度目の死の強要であると怒っている。

キリスト教信仰は「悔い改め」から出発する。真実の悔い改めは実を伴う。戦後50年を期に、諸教派、諸団体は戦争責任告白を表明している。その実質化が課題となる。

### 一牧師室から一

「謝罪」することは本当に難しいことだと思う。公害裁判において、国が謝罪したことはない。被害者たちは長い裁判に耐えかね「和解」という形で解決してきた。エイズに感染した血液製剤で発病した方は、5日に1人の割合で亡くなっているという。これも正式な謝罪はなく和解が模索されている。

「従軍慰安婦」問題解決のため彼女たちは真相究明、真の謝罪、個人賠償、責任者の処罰、正しい歴史教育、慰霊碑の建立などを要求している。自分の人生を奪われた彼女たちの口惜しさはどんなであろうか。彼女たちは死地に赴く兵士に優しかった、又敗走する軍隊に付き従い、負傷兵を看病し、多くの人が命を落したと伝えられ